

☆鈴鹿市立神戸中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

遅刻が多かったり、忘れ物をして授業に集中できなかったり等、学校生活で不安定な様子を見せる子どもたちがいます。これらの子どもたちの多くは、外国から来て言語や文化の違いの中で、戸惑いながらの生活を余儀なくされていたり、複雑な家庭環境や経済的に厳しい家庭事情があったりするなど、教育的に不利な環境のもとにいらしています。将来に対する展望をもちにくい状況が、これらの子どもたちの背景にあると考えられます。その子どもたちの支援をどのように進めていくかが、中学校区全体の大きな課題となっています。

2 課題解決のための主な取組

(1) 日常の学校生活の中での支援 (各校園で)

① 学習支援ボランティア等の取組

授業時間に学習支援ボランティアが教室に入り、「困り感」を抱え、学習に取り組みづらい子どもの支援を行いました。

② 図書館ボランティア・読み聞かせボランティア等の取組

子どもたちが来たくくなるような図書館にするために、本の紹介ディスプレイや飾りつけをしたり、読み聞かせを行ったりしました。

③ ルビふりボランティアの取組

日本語の力がまだ十分でなく、教科書が読みづらい外国人の子どものために、ルビふりを行いました。

④ あいさつ運動、登下校の見回り、登校支援等の取組

子どもたちの登下校を見守り、声かけをしたり話を聞いたりして、励ましました。

⑤ 野菜作り

幼稚園では、子どもたちと一緒に野菜作りをしました。園児たちは、野菜を育てるために、毎日水やりをしたり草を抜いたりすることが必要であることを知り、食べ物や食べることの大切さを感じることができました。

(2) 地域の中にある差別をなくす取組等に学ぶ人権学習や「ようこそ先輩」の学習等の講師 (各校で)

教育的に不利な環境のもとにある子どもたちは、地域の中で差別をなくそうとしている取組がたくさんあり、それに参画している人たちもたくさんいることに力づけられました。差別に向き合い強く生きている地域の人々の姿を、自分の生き方を考えていくときのモデルとすることができました。

(3) 「ぬくたいフェスタ」の開催 (中学校区全体で)

「障がいのあるなしにかかわらず、だれもが自分らしく輝くことのできるぬくたい (温かい) 町を作ろう」をテーマに、開催しました。大人たちは、このイベントの開催を通じて、子どもたちに「私たちは、あなたたち一人ひとりが自分らしく輝くことができる町をつくっていきます」というメッセージを伝えていくことを大切にしました。教育的に不利な環境のもとにある子どもたちの中からも、生徒実行委員としてフェスタの運営にたずさわりました。活動を成し遂げたこと、自分たちが企画・運営したコーナーで集まった子どもたちが楽しんでくれたこと、大人からほめられ認められたこと、発信した自分の思いに大人たちが共感してくれたこと等で、子どもたちの自尊感情が高まりました。



ぬくたいフェスタ (右も同じ)

(4) 大人のスキルアップのためのセミナーの開催

子ども支援ネットワークの活動が、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちにとってどのような意義を持つかを再認識したり、どのように関わりを深めていくことができるかについて考えたりしました。

◆実践を振り返って

地域住民に関わってもらうことで、自分の地域をもっと知りたいという意欲が高まった子どもがいました。「この地域の中で、地域の人とつながり、自分も頑張っていきたい」という気持ちにさらに高めていきたいと考えます。また、地域住民から学校に「あの子のことが心配なんやけど…」と子どもの情報が届くことも増えました。子ども支援ネットワークの取組で、子どもたちも喜んでいますが、地域住民からも「子どもたちから元気をもらえる」という言葉が出る等、大人の自尊感情も高まっているように感じられます。今後は、教育的に不利な環境のもとにある子どもの生活背景にある人権侵害や差別の現状について、子ども支援ネットワークのメンバーで深く話し合うことを通し、人権尊重の地域づくりを進めていきたいと考えます。